

平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
たかまつミライエ5階
TEL:087-833-2211 FAX:087-833-2244



平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭



朗読劇の様子

令和2年11月14日（土）、たかまつミライエ1階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。例年5月に開催していたものですが、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時期や規模を変更しての開催となりました。

第一部「平和を語るつどい」では、高齢協劇団エルダーキャッツの皆さんに朗読劇「高松空襲の夜」を上演いただきました。昭和20年7月4日未明の「高松空襲」の惨劇を、ある一家の防空壕でのやりとりを通して再現しています。8人の劇団員さんの熱演で、当時の世相や

人々の心の葛藤、不安な気持ちが手に取るように伝わってきました。特に、空襲の最中、新しい命が誕生した場面では、来場者の皆さん誰もが固唾をのんで聞き入っていました。

第二部「憲法記念平和映画祭」では、こうの史代さん原作の「夕凧の街 桜の国」を上映しました。広島への原爆投下から十数年後と現代に生きる二人の女性を通して、現在までに至る原爆の影響を描いています。何気ない日常生活、家族や恋人との愛にあふれた人生から感じるのは、生きることの喜びと平和への願いでした。

ご多忙の中、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

平和を語るつどい
憲法記念平和映画祭
ご来場者アンケートより
ご協力ありがとうございます！

よく考えられた企画だと思う。平和のために何が必要か考えるためにも、若い子や親子連れ等、広い世代、老若男女の参加が望まれます。
(60代：男性)

朗読劇は高松空襲の悲惨さをリアルに伝え、二度と戦争を繰り返してはいけないという思いを強くしました。(40代：女性)

戦争の負の真実を知ることは大切である。映画は、被爆者である亡父を思い起こし、納得できる内容であった。(70代：男性)

高松戦災・原爆写真展

令和2年8月8日（土）から8月14日（金）まで、市民交流プラザIKŌDE 瓦町展示コーナーにおいて、高松市平和を願う市民団体協議会と共催で「高松戦災・原爆写真展」を開催しました。高松空襲の戦災に関する展示物等と広島・長崎の原爆被害に関するパネル等、65点を展示しました。

その中の被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」12点は、広島市立基町高校で美術を専門に学ぶ生徒たちが、被爆者から直接話を聞き、被爆後の光景を絵画作品に仕上げたものです。

「倒れた塀に挟まれた人に足をつかまれて、助けを求められた様子」や「倒壊した学校の壁の下敷きになっていた生焼けの死体」などの12枚の作品には、原爆投下後の惨状や苦しむ人々の様子が生々しく描かれています。

被爆体験者と高校生の「こんな思いを誰にもさせてはならない」という切実な願いが込められた絵画に、会場では多くの方が見入っていました。

また、中学生や高校生が、自由研究や平和学習のレポート作成のために、スマートフォンやカメラで原爆の資料パネルを撮影する姿もありました。

「核兵器の廃絶」「世界の平和」は、人類共通の願いです。そして、私たちは世界で唯一の核兵器による被爆を体験した国民です。平和記念館では、その悲惨さや恐ろしさを後世に伝えていく取り組みを今後も行ってまいります。



原爆の絵

平和学習（出張！こども未来館学習）

「こども未来館学習」は、高松市内の小学校4年生を対象に、「たかまつミライエ」内の各施設を利用して行う体験的な学習です。平和記念館での「平和学習」もその中の一つです。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の「こども未来館学習」の実施は取りやめ、希望する学校に出向いて授業をする形式に変更しました。「平和学習」も、希望した学校で実施中です。



出張平和学習の様子

初めての試みであり、平和記念館で行っていたときのような十分な内容の活動ができるか不安でしたが、どの学校でも、児童の皆さんに真剣なまなざしで学習に取り組んでもらえ、充実した平和学習を実施することができました。

厚く、お礼申し上げます。この学習をきっかけに、「平和」についての考えを深め、今後の歴史学習につなげていただければと思っております。

映像資料「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」

平和記念館では、「高松空襲を子どもたちに伝える会」から寄贈していただいた、DVD「あの日わたしは」を所蔵しています。これは、高松空襲を経験された方々（当時6～20歳）の貴重な証言映像などを記録した39枚のDVD（mp4形式）です。

これらの39枚のDVDには、作成に携わった皆様の、平和な世の中を願い、次の世代に戦争の悲惨さを語り継いでいかなければならないという、熱い思いが込められています。



これらのDVDのうち、当時、「高松空襲を子どもたちに伝える会」代表であった植田正太郎さんが、お孫さんの井下有恵さんに、高松空襲に至るまでの戦争の経過と空襲当日の長かった1日、その後の生活や戦争の現実について語った証言映像「祖父に聞く高松空襲」（約35分間）は、平和記念館のホームページからも視聴することができます。

なお、これらのDVDは、貸出も行っていますので、平和学習の資料として、学校や地域、職場での研修等にご活用ください。



平和記念館では、平和映画上映会を次のとおり開催しています。ぜひ、ご家族でご覧ください。

- 場 所 高松市平和記念館映像学習室
- 作 品 「アゲハがとんだー1945・3・10東京大空襲ー」（アニメ）
- 期 間 令和3年1月～3月
- 日 時 開館日の土・日・祝日、午前11時～（1回目）、午後2時～（2回目）
- 時 間 約20分
- あらすじ

のどかな風景が広がる学童疎開先で、時にはけんかもしながら日々の生活をおくる子どもたち。

ある日、昆虫が大好きな少年サトルや友達のシロー、ヨシコたち6年生は、卒業式を母校で迎えるために、一旦、東京に戻ることになります。つかの間の家族との再会を楽しんだ子どもたちを、1945年3月10日未明、B29爆撃機が襲います。

▼今後の行事予定

3月

- 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展
期 日 令和3年3月18日（木）～30日（火）
場 所 香南歴史民俗郷土館
内 容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示



※ 新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

わかしお

若潮部隊隊員が使用していた食器

寄贈者 宮原 隆昌 様

太平洋戦争末期に小豆島にあった「陸軍船舶特別幹部候補生隊(若潮部隊)」で使用された食器。主食用(直径16.5cm×高さ7cm、重さ600g)、副食用(直径19cm×高さ5.5cm、重さ550g)、汁物用(直径12.8cm×高さ7cm、重さ400g)、湯飲み(直径11cm×高さ7cm、重さ284g)の4個の食器で1セットとなっている。陶器製で、分厚く重量感がある。それぞれ、内側には陸軍を示す「星章」が入っており、裏底には、「名陶」と焼き付けられている。

若潮部隊は、悪化する戦況を打開しようと、旧陸軍が19歳までの少年志願兵で編成した部隊である。小豆郡土庄町の東洋紡瀧崎工場が部隊の兵舎として使用された。1943(昭和18)年から1944(昭和19)年にかけて、1期から4期まで、約8千人の少年が入隊した。1期生は250キロの爆雷を搭載したベニヤ板製のモーターボートで出撃し、多くが戦死したという。



戦時用語解説 60

学童疎開 〈ガクドウソカイ〉

戦争が日本国土に近づいてきた1944(昭和19)年、都会に住む子どもたちを空襲から守るため、安全だと思われる地方に移動させる「疎開」が進められた。親戚に預けたり、学校ごとにまとまって移動させたりした。集団での疎開の受入先はお寺や旅館であり、子どもたちは親元を離れてつらい思いをした。また、食糧難や衛生状態の問題などもあって、快適、安全な生活は送れなかった。

現在、平和記念館で上映中の「アゲハがとんだー1945・3・10東京大空襲ー」は、卒業式を挙げるために一時帰京した学童疎開中の子どもたちを襲った悲劇を題材としている。

編集メモ

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの仕事や生活はこれまでと大きく変化しました。国民的スターも感染により亡くなられ、日本中が悲しみに包まれました。年末になっても収束の気配はなく、緊張を強いられる日々が続いており、こころの不調を訴える人も増えています。

このような厳しい状況の中、新型コロナウイルス感染症対策に従事される医療・福祉関係の皆様には、深く感謝を申し上げます。どうか、2021年は平和で希望に満ちた年となってほしいものです。



たかまつミライエ

高松市平和記念館(たかまつミライエ5階)

開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

入館料:無料

▼ホームページアドレス(平和啓発の推進事業がご覧いただけます) ▲QRコード

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>

